

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・全国平均正答率を下回っている。 ・領域等では、書くことは全国平均正答率を上回っているが、読むこと、話すこと・聞くことは、全国平均正答率を下回っている。
国語B	・全国平均正答率を下回っている。 ・評価の観点では、国語への関心・意欲・態度は、やや高いが、読む能力は、全国平均正答率を下回っている。
算数A	・どの領域においても、全国平均正答率をやや下回っている。 ・基礎・基本の徹底を図るため、少人数指導を第5学年から行って、個に応じて指導をしたことで全国平均正答率に近付いていると考えられる。
算数B	・全国平均正答率を下回っている。 ・特に、「数と計算」領域、「数量関係」領域が全国平均正答率を下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていて、それを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童の割合は全国の児童数の割合より高い。今後も、話し合いの内容や方法について校内研究を通して深めていき、さらなる充実を図る。 ・読書習慣が身に付いている。今後も、国語科「読むこと」領域の学習指導において、並行読書を推進していく。 ・自尊心が低い。一人一人のよさを見付けてほめる取組を学校だけでなく、家庭にも啓発していくことを通して高めていく。 ・家で、自分で計画を立てて勉強をしたり、普段の勉強時間が1時間以上であったりする児童の割合は全国の児童数の割合より低い。宿題を見直したり、自主学習がよくできている児童の例を掲示したりして増やしていく。 ・普段のテレビゲームをする時間が1時間以上である児童の割合は全国の児童数の割合より高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 「古前小 授業改善シート」の効果的な活用
- 学力定着サポート問題の活用
- 「話し合い活動の古前スタンダード」の活用
- 朝の活動(音読タイム、計算スキル、視写・漢字タイム、ぐんぐんタイム、読書タイム)の確実な実施

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年×10分間の家庭学習の目標達成
- よい自主学習ノートの掲示と評価
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用